



# 日進北小だより

令和元年11月1日  
第7号

TEL 048-663-1842

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp>

## 学校教育目標

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する

## はたらく

校長 宇佐見 弘幸

先月、台風15号についてお伝えしたばかりなのに、10月12日から13日にかけては、台風19号が東日本を直撃してしまいました。被害は甚大で、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。本校では、前日に避難所開設の連絡が入り、体育館を中心に約100人の方にご利用いただきました。十年に一度といわれるような災害が、毎年のように発生しています。前月にも申し上げましたが、みなさんで災害への備えをする必要があると思います。

さて、11月14日は「県民の日」です。「さいたま市」は政令市なので、県とのつながりが希薄になりつつありますが、「埼玉県」は明治4年の廃藩置県で誕生しました。当時の埼玉県は今と異なり、荒川の東側だけでした。西側は入間県という名前だったそうです。入間県は明治6年に現在の群馬県と合併して熊谷県になります。その後、明治9年に旧入間県と埼玉県が合併して現在とほぼ同じ形になりました。最初に埼玉県が誕生したのが、旧暦の11月14日だったことから、昭和46年にこの日が「県民の日」になりました。

11月は他にも祝日があります。その中の一つに勤労感謝の日があります。勤労感謝の日について調べていると、「はたらく」ということについて、次のような話に出会いました。石材を切り出している「石工」という人のお話です。ある人が、二人の石工に「何をしていますのですか」とたずねたそうです。すると一人は、「このいまましい石を切っているところさ」と答えたそうです。次に、もう一人の石工に同じことをたずねます。もう一人の石工は「大聖堂を建てる仕事をしているんだよ」と答えたそうです。二人は全く同じ仕事をしているのに、「はたらく」ということについて気もちのもち方が全く異なることが分かります。一人目の石工は、石切として「はたらく」ことが、いやなことであり、つらいことであり、その結果いいかげんな仕事になり、疲れも大きくなったのでしょうか。しかし、もう一人の石工は、石切として「はたらく」ことは、一つ一つ石を積み上げて完成した大聖堂を心の中に描き、「やってよかった」という満足感、「私はこんな立派な仕事をしているのだ」という誇りをもっているのでしょうか。お子さんの周りには「学習」「当番」「手伝い」などたくさん「はたらく」があります。お子さんが「はたらく」ときにも二人の石工と同じことがいえると思います。気もちのもち方によってやる気が起こり、やりとげた喜びを感じ、新たな一歩への大きなエネルギーとなるはずです。大人たちは、日々「はたらく」お子さんたちに「大聖堂を建てる仕事をしているんだよ」という気もちを育てることが必要なのではないのでしょうか。そのために、ときにはほめ、ときには励まし、やらせっぱなしにしないで見守り、成功体験できるよう気づかれずに応援することが必要なのではないのでしょうか。主体的に「はたらく」ことができるお子さんたちを学校、家庭、地域で連携して育てていきたいものです。